

## まちなみづくりの方針

田邊らしいまちなみを実現するために、ここでは大きく3つの方針を示しています。写真やイラストで示した田邊の伝統的なデザインを活かしながら、田邊らしいまちなみを次世代に継承していきましょう。

### 1. 昔ながらの建物は、建築当初のデザインに修景<sup>※</sup>し、次世代に継承しましょう

田邊に今でも残る昔ながらの建物には、つし二階<sup>はこのき そどうぼつ まにふし</sup>や箱軒<sup>こまよせ</sup>など伝統的な建物特有のデザインが随所にみられます。これらのデザインにはそれぞれの建物が建てられた時代の背景や当時の流行などが反映されており、長い歴史の厚みを感じ取ることができます。

昔ながらの建物は、これら建築当初のデザインを尊重して修景することで、歴史の厚みのあるまちなみを次世代に継承しましょう。

#### ◆昔ながらの建物の修景の例（平野郷地区）



建築当初の姿に戻し、看板などをまちなみの雰囲気に合わせています。

※ 修景とは、まちなみをつくること、整えることをいいます



つし二階

二階部分の天井が低くなったものをいい、田邊では、本二階への移行期のやや天井の高いものがみられます。



箱軒

2階の軒先を箱段状にし、防火のため、銅板で覆ったものやモルタルで塗り固めたものをいい、田邊でも多くみられます。



洋館風の下屋

建物本体についた付属屋を下屋といい、田邊では近代に建てられた住宅に洋館風のものが見られます。

駐車場やマンションの塀はまちなみに配慮する

例：板塀など自然な素材や色彩でつくる など

道路沿いや庭の植栽で、まちなみを演出する

例：生垣を設ける、庭木の手入れを行う、古くからある木を保存する など

## 2. 屋敷や長屋などの塀や門、軒庇、植栽で、まちなみの連続性をつくりましょう

伝統的なまちなみの特徴は、一階の軒庇や塀、視線に近い位置にある瓦屋根などの連なりが、まちなみの統一感を印象づけ、まちを歩く人たちに親密な印象を与えてくれるところにあります。

田邊には、塀や門のある旧農家の屋敷や社寺、塀付きの近代長屋などが多いという特徴があります。これらの塀や門を大切に残し、まちなみの連続性をつくりましょう。

また、軒庇や塀が設けられなくても、道路に面して、生垣やちょっとした植栽をしつらえることで、まちなみの連続性をつくることもできます。



屋敷の塀や軒庇の連なりがまちなみに統一感と親密な印象を与えています。



土蔵

田邊では塀の並びに建てられたものがみられ、まちなみのアクセントになっています。



煙出し

古くはへっついさん（かまど）で煮炊きをしたため、台所の上には換気用に煙出しが設けられていました。

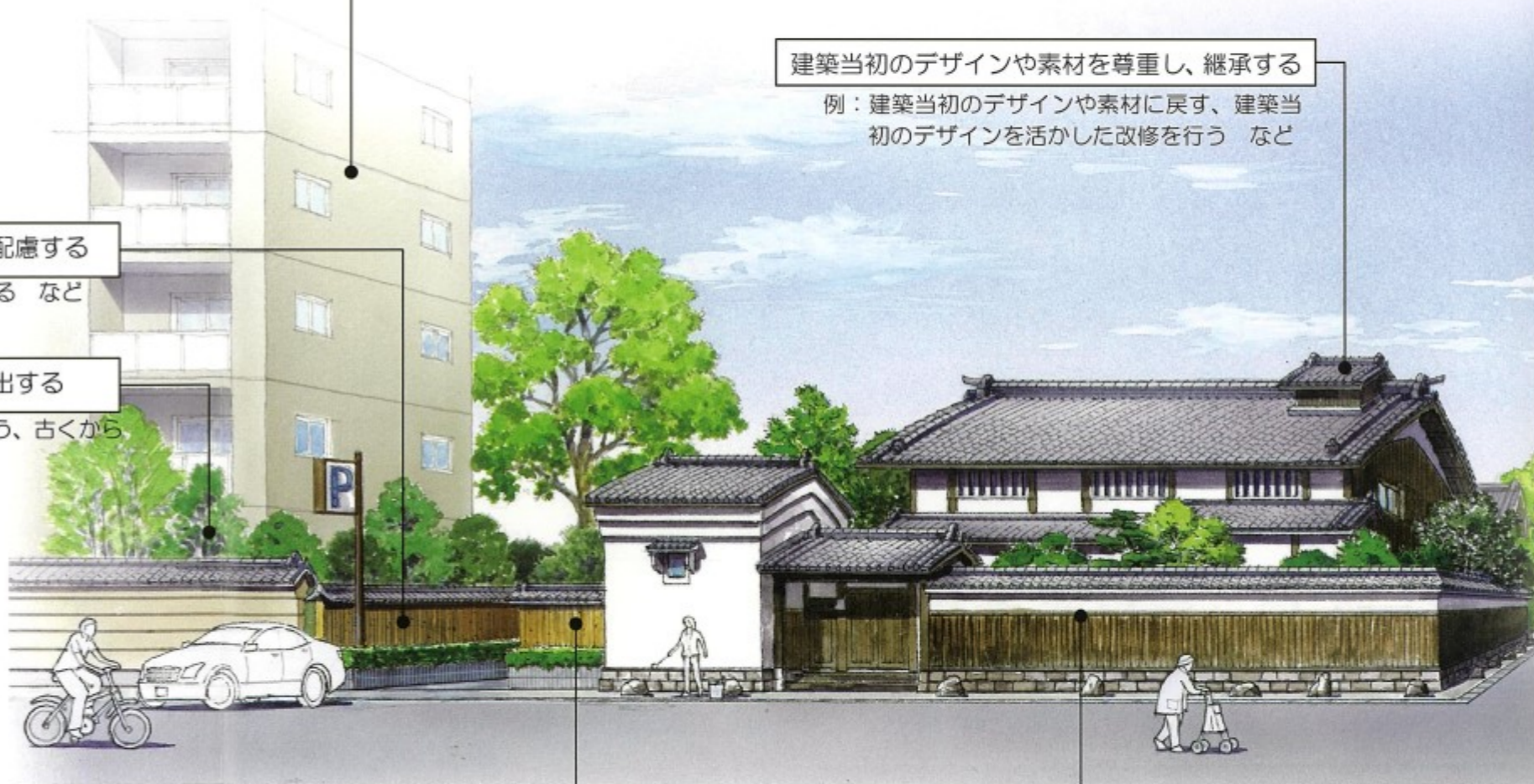


駒寄

元は牛馬をつなぎとめておく柵で、現在は軒下に人が入るのを防いでいます。

建築当初のデザインや素材を尊重し、継承する

例：建築当初のデザインや素材に戻す、建築当初のデザインを活かした改修を行う など



庇や塀、植栽により連続性をつくる

例：1階に庇を設ける、塀・植栽を設ける など

塀・門などはまちなみに配慮する

例：塀・門などは伝統的なデザインに修景する など